

病害虫発生予察 6月月報

(生育概況及び病害虫の調査結果)

令和4年6月の気象表(長野地方気象台発表)

官 署		平均気温 ℃			降水量 mm			日照時間 h		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
長 野	本年	17.9	19.8	26.5	29.0	40.5	9.0	67.6	52.6	85.3
	平年	19.2	20.5	21.6	15.7	35.3	55.1	67.3	54.8	45.6
松 本	本年	17.6	19.9	26.4	62.5	25.5	31.0	68.8	58.8	86.9
	平年	18.9	20.2	21.6	17.5	42.8	54.5	66.2	54.5	45.6
諏 訪	本年	17.3	18.6	24.5	49.5	21.0	59.5	71.9	41.2	78.9
	平年	18.0	19.3	20.6	22.7	59.7	72.7	64.9	53.0	43.4
軽井沢	本年	13.0	15.3	21.8	66.0	60.0	17.0	53.5	44.7	73.7
	平年	14.5	16.1	17.5	29.1	64.4	61.1	60.5	47.3	38.7
飯 田	本年	18.9	20.2	25.4	41.5	17.0	35.0	69.1	37.6	71.5
	平年	19.3	20.7	21.8	33.5	67.4	91.0	61.9	52.4	41.4

高気圧に覆われて晴れた日が多くなったが、気圧の谷や湿った空気の影響により、雷雨や大雨となった日もあった。

中旬まではオホーツク海高気圧の影響などで冷たい空気が流れ込み、気温が平年を下回ったが、下旬は太平洋高気圧が強まり暖かい空気が流れ込みやすく、月平均気温は高くなった。

28日から30日は太平洋高気圧に広く覆われ、晴れて気温が上昇し、猛暑日を観測した地点が多くあった。また、県内の多くの観測地点で6月の日最高気温1位を記録した。

気象庁は、27日に「関東甲信地方は梅雨明けしたとみられる」と発表した。

1 麦

(1) 生育概況

第1表 麦の生育状況 須坂市(農業試験場作物部)

品 種 名	区分	出穂期	成熟期		
			稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/㎡)
ファイバースノウ (大麦)	平年	4/29	93	4.6	424
	前年	4/25	94	4.4	475
	本年	4/27	97	4.7	647
シラネコムギ (小麦)	平年	5/ 5	85	8.5	509
	前年	5/ 5	86	8.2	672
	本年	5/ 2	88	7.7	527

<耕種概要>播種期：大麦 2021年10月20日 小麦 2021年10月21日

(注) 平年は2015～2021年までの最大値と最小値を除いた5か年の平均値

(2) 病害虫の発生状況

①麦類の赤かび病

巡回調査では、南信地域及び中信地域で発生が見られ、発病穂率、発生地点率は南信地域及び中信地域で平年と比べ高かった。

②さび病

小麦のさび病は、南信地域及び北信地域で多かった。北信地域は、発病度、発生地点率ともに平年と比べ高かった。南信地域は平年値が高いため、平年と比べ発病度は低かったが、発病地点率は平年並に高かった。

③うどんこ病

中信地域、北信地域で平年に比べて発病度が高かった。

④小麦の土壤伝染性ウイルス病(コムギ縞萎縮病、コムギ萎縮病)

主に中信地域で発生がみられ、ほぼ平年並であった。

2 水 稲

(1) 生育概況

第2表 イネの生育状況 須坂市(農業試験場)

品種名	区分	移植後20日			移植後30日			移植後40日		
		主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/㎡
あきた こまち	平年	6.5	27	209	8.2	35	413	9.5	46	601
	前年	5.9	28	227	7.8	36	500	9.0	47	644
	本年	6.1	24	221	8.3	34	549	9.9	55	659
コシヒ カリ	平年	6.6	30	237	8.2	39	472	9.6	50	642
	前年	6.0	29	185	8.1	39	463	9.2	47	639
	本年	5.9	27	224	8.2	37	576	9.8	57	699

*移植期：2022年5月20日

*平年は2015年から2021年までの収量の最多、最少を除いた5か年の平均値

第3表 イネの生育状況 原村(農業試験場原村試験地)

品種名	区分	移植後20日			移植後30日			移植後40日		
		主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/株	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/株	主稈 葉数	草丈 cm	茎数 本/株
ゆめし なの	平年	5.9	30	103	7.5	35	220	9.0	51	456
	前年	6.3	32	80	7.5	33	143	9.3	45	282
	本年	5.1	30	83	7.0	35	198	9.0	58	472

*移植期：2021年5月25日

*平年は2015年から2021年までの収量の最多、最少を除いた5か年の平均値

(2) 病害虫の発生状況

①いもち病

AMeDASデータを用いた葉いもち感染予測モデル「BLASTAM」によると、6月の感染好適条件の出現頻度は、中信地域で平年と比べ約1.5倍と多かった。南信地域はほぼ平年並、東信地域及び北信地域は平年と比べ少なかった(第4表)。

第4表 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の6月の出現回数

地域	東信	南信	中信	北信	全県
アダス地点数	5	8	9	5	27
平 年	4.2	6.7	4.2	4.2	19.3
本 年	2	6	6	1	15
平年比(%)	47.6	89.6	142.9	23.8	77.7

※BLASTAMの判定結果は、JPP-NET(一般社団法人日本植物防疫協会)から引用。平年は2012年から2021年までの平均値。

②ニカメイチュウ

小布施町に設置したフェロモントラップへは第5半旬に1頭誘殺された(第5表)。上田市の予察灯では、6月の誘殺頭数は平年と比べかなり多く、1か月の合計で平年の約6倍の誘殺頭数であった(第6表)。

第5表 ニカメイチュウ成虫のフェロモントラップによる誘殺消長(頭) 小布施町

区 分	6月					
	1	2	3	4	5	6
平 年	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
本 年	0	0	0	0	1	0

平年は2012年から2021年までの平均値

第6表 ニカメイチュウ成虫の予察灯による誘殺消長(頭) 上田市

区 分	6月					
	1	2	3	4	5	6
平 年	3.2	3.2	4.4	3.3	1.7	1.8
本 年	19	17	8	43	19	5

平年は2012年から2021年までの平均値

③ツマグロヨコバイ

第1世代成虫は、予察灯への誘殺頭数も少なく、平年と比べやや少ない発生であった。

④ヒメトビウンカ

上田市の予察灯への誘殺は、6月第3半旬からみられた。その後、第4半旬～第6半旬の誘殺頭数は平年と比べかなり多く、特に第5半旬は5日間で200頭を超える誘殺頭数であった(第7表)。周囲の小麦の収穫が始まり、そこから飛散してきたものと推察される。

須坂市の予察灯への誘殺は、6月第5半旬からで、誘殺頭数は平年並であった。

その他4か所の予察灯への誘殺は、6月中はなかった。

第7表 ヒメトビウンカ成虫の予察灯による誘殺消長(頭) 上田市

区 分	6月					
	1	2	3	4	5	6
平 年	0.1	0.5	1.5	0.1	1.1	0.4
本 年	0	0	1	82	236	27

平年は2012年から2021年までの平均値

⑤イネミズウムシ

AMeDAS気温データによる越冬後成虫の半数出現時期は、平年と比べ早かった地点が多く、10日以上早かったところもあった。巡回調査では、越冬成虫寄生頭数は平年と比べ多く、被害度も高かった。

⑥イネドロオイムシ

巡回調査では、東信地域、中信地域で発生が多く、被害度の高いほ場がみられた。

⑦セジロウンカ

県下6か所の予察灯への誘殺は、6月中は確認されなかった。

⑧トビイロウンカ

県下6か所の予察灯への誘殺は、6月中は確認されなかった。

⑨斑点米カメムシ類

予察灯へのアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺頭数は、6か所中5か所でほぼ平年並で、残り1か所は平年と比べやや少なかった。

巡回調査による畦畔のすくい取り調査では、斑点米カメムシ類の捕獲頭数は平年並～やや少なかった。

3 りんご

(1) 生育概況

6月15日までの果実肥大は平年並であったが、7月1日では平年と比べやや小さい(第1表)。

第1表 りんごの果実肥大状況 須坂市(果樹試験場)

調査日	つがる								ふじ							
	縦径(mm,%)				横径(mm,%)				縦径(mm,%)				横径(mm,%)			
	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比
6/1	27.9	29.9	28.5	102	28.7	32.4	28.9	101	26.9	26.2	27.2	101	26.6	29.1	27.0	101
6/15	38.7	40.4	40.1	104	41.9	45.3	42.4	101	35.8	34.5	36.8	103	39.0	41.6	40.2	103
7/1	50.2	51.2	49.6	99	57.2	59.9	54.8	96	44.3	43.4	42.0	95	51.5	54.5	47.2	92

平年は2007年～2021年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

①赤星病

巡回調査では、北信地域及び東信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

②うどんこ病

巡回調査では、北信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

③褐斑病

巡回調査では、東信地域、南信地域、北信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

④黒星病

巡回調査では、北信地域で6月上旬から葉の病斑を確認し、発生量は平年並であった。

⑤斑点落葉病

巡回調査では、東信地域及び北信地域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

⑥腐らん病

巡回調査では、東信地域及び北信地域で発生がみられ、発生量は平年並～やや多であった。

⑦アブラムシ類

巡回調査では、新梢の先端や果実に寄生がみられ、発生量は平年並～やや多であった。

⑧キンモンホソガ

巡回調査では、県下全域で寄生葉(マイン)がみられ、発生量は平年並であった。

須坂市(果樹試験場)のフェロモントラップ調査では、7月上旬までの誘殺消長は平年と比べ少なかった(第2表)。

第2表 キンモンホソガのフェロモントラップによる誘殺消長(頭)

須坂市(果樹試験場)

区分	5月				6月						7月	
	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2
半年	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	0.6	0.3	1.3	10.7	32.7	83.7	101.1	96.1	41.2	23.5	98.6	143.1
前年	0.0	0.0	0.0	1.0	19.0	19.0	22.0	9.0	6.0	0.0	17.0	24.0
本年	0.0	0.0	0.0	0.5	11.4	8.8	3.5	5.8	1.5	4.0	6.2	9.0

平年は2012年から2021年までの平均値

⑨シンクイムシ類

須坂市(果樹試験場)のモモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺頭数は、7月上旬までは平年と比べ少なかった(第3表)。

第3表 モモシンクイガのフェロモントラップによる誘殺消長(頭)

須坂市(果樹試験場)

区分	5月				6月						7月	
	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2
半年	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	0.0	0.1	1.3	2.4	4.7	10.5	9.5	9.7	8.7	6.1	9.8	3.5
前年	0.0	0.0	0.0	1.0	7.0	14.0	6.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
本年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0

平年は2012年から2021年までの平均値

⑩ハダニ類

巡回調査では、ナミハダニ、リンゴハダニの寄生が6月上旬から散見され、発生量は平年並であった。

⑪リンゴコカクモンハマキ

須坂市(果樹試験場)の越冬世代成虫のフェロモントラップによる誘殺はなかった(第4表)。

第4表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長(頭)
須坂市(果樹試験場)

区分	5月				6月						7月	
	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	0.0	0.0	0.1	0.1	0.5	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
前年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
本年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平年は2012年から2021年までの平均値

4 なし

(1) 生育概況

7月1日までの果実肥大は、平年と比べやや大きい(第1表)。

第1表 なしの果実肥大状況(mm,%) 高森町(南信農業試験場)

品種	区分	5月15日		6月1日		6月15日		7月1日	
		縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
二十世紀	平年	17.6	16.4	26.1	26.5	31.3	32.9	36.4	39.4
	前年	19.4	18.5	27.8	27.2	32.2	32.9	39.4	40.7
	本年	19.3	18.0	27.4	27.2	34.0	34.3	38.3	40.2
	(平年比)	(109)	(110)	(105)	(103)	(109)	(104)	(105)	(102)
幸水	平年	14.4	15.2	23.3	26.7	29.2	34.1	35.5	42.8
	前年	16.7	18.3	24.8	27.9	30.6	36.0	38.1	45.0
	本年	16.1	17.9	25.8	29.9	32.9	38.2	38.5	46.4
	(平年比)	(112)	(118)	(111)	(112)	(113)	(112)	(108)	(108)
豊水	平年	18.5	18.2	26.8	28.4	32.6	35.1	38.6	42.7
	前年	19.0	20.2	27.4	29.4	32.5	36.4	40.4	44.3
	本年	18.9	19.9	28.0	30.9	36.7	39.8	41.8	47.1
	(平年比)	(102)	(109)	(104)	(109)	(113)	(113)	(108)	(110)

平年は2001年から2020年までの平均値(幸水は長果枝と短果枝の平均)

(2) 病害虫の発生状況

①赤星病

巡回調査では、発生はみられなかった。

②黒星病

巡回調査では、南信地域の2ほ場で、葉に発生がみられた。

高森町(南信農業試験場)の調査では、殺菌剤無散布の果実及び新梢葉の発生は、5月上中旬からみられた(第2、3表)。

第2表 ナシ黒星病 果実の発病(%) (「幸水」殺菌剤無散布)
高森町(南信農業試験場)

区分	5月			6月			7月	
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日	15日
平年	12.6	26.5	29.4	34.3	43.8	47.9	65.0	71.5
前年	0.0	0.0	0.0	1.2	11.2	5.5	21.7	40.9
本年	1.0	27.4	25.5	38.5	51.2	57.3	66.4	

平年は2012年から2021年までの平均値

第3表 ナシ黒星病 果そう葉の発病(%) (「幸水」殺菌剤無散布)
高森町(南信農業試験場)

区分	4月	5月		6月			
	25日	5日	15日	25日	5日	15日	25日
平年	0.0	1.4	5.3	18.6	35.3	49.7	58.3
前年	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	9.1	12.9
本年	0.0	0.0	2.1	38.3	43.8	55.7	63.6

平年は2012年から2021年までの平均値

③黒斑病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)の調査では、アルタナリア属菌の孢子捕捉数は、5月第2半旬から飛散が確認され、増加傾向にある(第4表)。

高森町(南信農業試験場)の調査では、殺菌剤無散布の果実及び新梢葉の発生は5月中旬からみられ、発病率は平年と比べ高い傾向である(第5、6表)。

第4表 アルタナリア属菌の孢子捕捉数(個) 高森町(南信農業試験場)

区分	5月				6月				7月			
	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	4.8	9.1	6.7	14.1	16.5	24.8	40.2	30.0	23.7	21.4	21.7	18.4
前年	1.0	3.0	6.0	26.0	6.0	19.0	1.0	26.0	37.0	13.0	21.0	1.0
本年	2.0	20.0	11.0	30.0	39.0	35.0	56.0	55.0	43.0	35.0	4.0	56.0

平年は2012年から2021年までの平均値、18mm×18mm当たりの孢子数

第5表 ナシ黒斑病 果実の発病 (%) (「二十世紀」殺菌剤無散布)
高森町 (南信農業試験場)

区分	5月			6月			7月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	0.0	0.0	0.9	1.8	4.2	8.3	29.8
前年	0.0	0.0	9.0	15.4	9.4	16.4	67.2
本年	0.0	0.4	1.0	0.9	4.0	43.8	82.7

平年は2012年から2021年までの平均値

第6表 ナシ黒斑病 新梢葉の発病 (%) (「二十世紀」殺菌剤無散布)
高森町 (南信農業試験場)

区分	5月			6月			7月
	5日	15日	25日	5日	15日	25日	5日
平年	0.1	0.1	2.0	3.6	7.2	15.6	22.6
前年	0.0	0.0	17.0	13.2	18.9	31.6	58.2
本年	0.0	1.6	0.0	17.3	20.8	53.8	68.6

平年は2012年から2021年までの平均値

④カメムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。
高森町 (南信農業試験場) のフェロモントラップによるクサギカメムシ及びチャバネアオカメムシの誘殺頭数は、平年並であった (第7表)。

第7表 カメムシ類のフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)
高森町 (南信農業試験場)

種類	区分 半旬	6月						7月	
		1	2	3	4	5	6	1	2
クサギカ メムシ	平年	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	0.0	0.1	0.3
	前年	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	本年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
チャバネ アオカメ ムシ	平年	2.0	2.4	1.2	0.9	2.4	2.7	7.3	8.9
	前年	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0
	本年	0.0	0.0	0.0	2.0	3.0	12.0	6.0	3.0

平年は2012年から2021年までの平均値

⑤ナシヒメシクイ

巡回調査では、寄生や芯折れ症状はみられなかった。
高森町 (南信農業試験場) でのフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった (第8表)。

第8表 ナシヒメシクイのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)
高森町 (南信農業試験場)

区分	6月						7月	
	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	0.4	0.6	0.4	1.3	1.5	1.3	1.3	0.8
前年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
本年	1.0	0.0	0.5	2.0	1.5	1.5	0.5	0.5

平年は2012年から2021年までの平均値

⑥ハダニ類

巡回調査では、南信地域及び中信地域で寄生がみられ、一部のは場で増加傾向であった。

⑦リンゴコカクモンハマキ

巡回調査では、発生はみられなかった。
高森町 (南信農業試験場) のフェロモントラップによる誘殺は、5月第4半旬に初誘殺がみられ、7月第2半旬まで誘殺頭数は平年並であった (第9表)。

第9表 リンゴコカクモンハマキのフェロモントラップによる誘殺消長 (頭)
高森町 (南信農業試験場)

区分	6月						7月	
	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	1.0	0.8	0.5	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0
前年	6.0	0.0	1.0	2.0	3.0	2.0	0.0	0.0
本年	1.0	0.0	2.0	1.0	2.0	2.0	0.0	1.0

平年は2012年から2021年までの平均値

5 **もも**

(1) 生育概況

7月6日までの果実肥大は、「あかつき」は平年並~やや大きい、「川中島白桃」はやや大きい (第1表)。

第1表 ももの果実肥大状況 須坂市 (果樹試験場)

品種名	調査日	縦径(mm)				横径(mm)				側径(mm)			
		平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比
あか つき	6/1	35.7	38.5	36.9	103	31.0	35.2	31.5	102	26.6	31.0	26.9	101
	6/8	42.2	45.5	44.3	105	38.8	43.3	39.8	103	34.5	39.6	35.5	103
	6/15	46.1	47.9	48.3	105	43.9	47.1	45.8	104	40.2	44.4	42.0	104
	6/22	48.8	50.1	50.9	104	47.6	50.3	49.9	105	44.7	48.4	46.2	103

あか	6/29	51.9	53.5	53.0	102	51.0	54.2	52.6	103	48.8	53.3	49.9	102
つき	7/6	55.4	57.5	55.5	100	55.3	59.1	55.6	101	54.3	59.4	53.3	98
川中島 白桃	6/1	33.3	38.4	38.4	115	28.7	34.9	32.1	112	24.2	29.4	27.0	111
	6/8	40.5	45.8	46.3	114	37.3	43.7	41.7	112	32.1	37.9	35.5	111
	6/15	44.9	48.9	51.7	115	42.8	48.2	48.0	112	38.1	43.2	42.2	111
	6/22	47.4	50.6	53.0	112	46.6	51.4	52.1	112	41.9	46.7	46.5	111
	6/29	49.3	53.2	55.1	112	49.2	54.2	54.0	110	45.0	50.2	49.3	109
	7/6	51.2	55.7	56.4	110	51.5	56.8	56.1	109	48.0	53.7	51.9	108

平年は「あかつき」2011年から2021年まで、「川中島白桃」2002年から2021年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

①せん孔細菌病

巡回調査では、県下全域で発生がみられ、発生量は平年並であった。

②灰星病

巡回調査では、東信地域及び北信地域で発生がみられたが、発生量は平年並であった。

③ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

④モモハモグリガ

巡回調査では、東信地域及び北信地域で、被害葉がみられた。

須坂市（果樹試験場）のフェロモントラップ調査による誘殺は、5月下旬から第1世代成虫の発生がみられ、7月上旬までの誘殺頭数は、平年と比べ少ない傾向であった（第2表）。

第2表 モモハモグリガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

須坂市（果樹試験場）

区分	6月						7月	
	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	88.9	116.2	62.4	38.3	15.7	22.5	124.3	115.2
前年	4.0	2.0	1.0	3.0	0.0	4.0	4.0	7.0
本年	6.2	8.3	1.8	0.8	0.7	2.3	4.8	8.8

平年は2012年から2021年までの平均値

⑤ハダニ類

巡回調査では、被害葉はみられなかった。

⑥アブラムシ類

巡回調査では、新梢への寄生はみられなかった。

⑦カメムシ類

巡回調査では、被害果はみられなかった。

6 ぶどう

(1) 生育概況

須坂市（果樹試験場）の開花期は、平年並であった（第1表）。

須坂市（果樹試験場）の果実肥大は、平年と比べやや小さい傾向である（第2表）。

第1表 ぶどうの生育状況 須坂市（果樹試験場）

品種名	区分	発芽期	展葉期	開花期	満開期	落花期
巨峰	平年	4/27	5/3	6/8	6/11	6/14
	前年	4/24	5/2	6/7	6/10	6/14
	本年 (平年差)	4/25 (-2)	5/2 (-1)	6/8 (±0)	6/12 (+1)	6/15 (+1)

第2表 ぶどうの果実肥大状況 須坂市（果樹試験場）

品種名	調査日	縦径(mm、%)				横径(mm、%)			
		平年	前年	本年	平年比	平年	前年	本年	平年比
巨峰	7/1	18.2	21.0	16.5	91	15.7	18.3	13.8	88
	7/8	19.7	23.0	17.8	91	19.7	23.0	17.8	91

平年は2006年から2021年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

①灰色かび病

巡回調査では、花穂への発病はみられなかった。

②うどんこ病

巡回調査では、果房への発病はみられなかった。

③べと病

巡回調査では、東信地域及び北信地域で新梢及び葉への発病が見られた。

④灰色かび病

巡回調査では、葉及び花穂への発病はみられなかった。

⑤黒とう病

巡回調査では、東信地域で新梢への発病がみられた。

⑥クビアスカカシバ

小布施町のフェロモントラップによる誘殺頭数は、平年並であった。中野市のフェロモントラップによる誘殺頭数は6月6半旬までは平年並であったが、7月第1半旬に一時的に急増した。

⑦チャノキイロアザミウマ

巡回調査では、中信地域の2ほ場で被害葉がみられた。

7 **かき**

(1) 生育概況

落花期までの生育は、平年より2日早かった(第1表)。

7月1日の肥大状況は、平年よりやや小さい傾向である(第2表)。

第1表 かきの生育状況 高森町(南信農業試験場)

品 種	区分	発芽期	展葉期	開花期			落花期
				始	盛	終	
市田柿	平年	4/ 5	4/21	5/29	5/31	6/ 2	6/ 5
	前年	3/30	4/22	5/28	5/31	6/ 1	6/ 3
	本年	3/22	4/ 9	5/27	5/31	6/ 1	6/ 3

平年は2001年から2020年までの平均値

第2表 かきの果実肥大状況 (mm, %) 高森町(南信農業試験場)

品 種	区分	7月1日	
		縦径	横径
市田柿	平年	20.2	22.2
	前年	19.0	21.2
	本年	19.6	20.9
	(平年比)	(97)	(94)

平年は2001年から2020年までの平均値

(2) 病害虫の発生状況

①うどんこ病

巡回調査では、南信地域で発生がみられた。

②炭疽病

巡回調査では、発生はみられなかった。

③円星落葉病

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)での孢子飛散状況は、平年と比べ少ない傾向であった(第3表)。

第3表 カキ円星落葉病の子のう胞子の捕捉数

高森町(南信農業試験場)

区分	6月						7月	
	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	9.7	15.3	30.8	32.6	56.3	63.6	80.7	63.4
前年	0.7	0.5	7.9	20.7	31.7	50.2	119.0	43.3
本年	0.3	0.4	2.8	1.5	4.6	2.5	0.6	16.8

平年は2012年から2021年までの平均値 (18mm×18mm当たりの孢子数(×1000個))

④カキクタアザミウマ

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑤カキノヘタムシガ

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑥ハマキムシ類

巡回調査では、発生はみられなかった。

⑦フジコナカイガラムシ

巡回調査では、発生はみられなかった。

高森町(南信農業試験場)のフェロモントラップによる誘殺頭数は、6月第2半旬以降はなかった。

第4表 フジコナカイガラムシのフェロモントラップによる誘殺消長(頭)

高森町(南信農業試験場)

区分	6月						7月	
	1	2	3	4	5	6	1	2
平年	27.6	3.6	0.5	0.9	1.0	1.1	0.9	3.1
前年	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	3.0	0.0	0.0
本年	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平年は2013年から2018年までの平均値

8 **野菜・花き**

(1) 病害虫の発生状況

①トマトの病害虫

巡回調査では、中信地域の施設(半促成)栽培で、灰色かび病の発生がみられた。

施設栽培では虫害はみられなかった。露地栽培(ジュース用)では、病害虫の発生はみられなかった。

②きゅうりの病害虫

巡回調査では、中信地域の施設（半促成）栽培で、べと病の発生が多くみられ、うどんこ病の発生もみられた。

虫害では、中信地域の施設（半促成）及び北信地域の露地栽培で、アザミウマ類の寄生がみられた。露地栽培ほ場では、病害の発生はみられなかった。

③アブラナ科野菜の病害虫

巡回調査では、病害の発生はみられなかった。

中信地域のキャベツでウワバ類、東信地域、中信地域のキャベツや東信地域、南信地域のブロッコリーでコナガの寄生がみられた。

その他、加害種は確認できなかったが、各地のキャベツ、東信地域及び南信地域のブロッコリーや東信地域及び中信地域のはくさいで、チョウ目害虫の食害痕がみられた。

④レタスの病害虫

巡回調査では、東信地域ですそ枯病、斑点細菌病、中信地域では腐敗病の発生がみられ、特に一部で発病率が高いところがあった。

虫害の発生はみられなかった。

⑤アスパラガスの病害虫

巡回調査では、病害の発生はみられなかった。特に近年問題となっている茎枯病の発生はみられなかった。

虫害は、南信地域、中信地域、北信地域でアザミウマ類の寄生がみられ、南信地域ではアブラムシ類の寄生がみられ、東信地域ではハダニ類の寄生がみられた。

⑥たまねぎの病害虫

巡回調査では、病害の発生はみられなかった。

虫害は、中信地域及び北信地域で、アザミウマ類による被害が大きいところがあった。

⑦ねぎの病害虫

巡回調査では、南信地域でさび病の発生がみられた。

虫害は、南信地域及び中信地域でアザミウマ類及びネギハモグリバエの寄生がみられ、中信地域ではアザミウマ類による被害が大きいところがあった。

⑧コナガ（アブラナ科野菜）

巡回調査では、東信地域及び中信地域のキャベツ、東信地域及び南信地域のブロッコリーでコナガの寄生がみられた。

フェロモントラップによる誘殺頭数は、小諸市山浦（野菜花き試験場佐久支場）では、6月第4半旬から第5半旬にかけて急増し、原村（防除適期決定ほ）では6月第3半旬までの誘殺頭数が多かった。その他の調査地点については、全般的に平年並であった（第1表）。

第1表 コナガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	23.6	18.6	13.3	13.2	22.3	13.7
		本年	2	2	11	0	12	2
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	15.2	17.7	19.2	27.5	25.7	20.7
		本年	21	17	64	29	118	52
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	0.5	0.2	1.1	1.5	1.2	3.5
		本年	2	8	1	5	0	6
諏訪郡原村 （防除適期決定ほ）	ブロッコリー	平年	18.6	16.1	20.9	24.1	33.2	40.3
		本年	47	87	35	20	29	37
東筑摩郡朝日村 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	37.3	47.3	23.7	19.7	15.3	7.3
		本年	8	19	14	8	7	4
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	28.8	29.9	22.3	25.4	21.3	27.9
		本年	37	38	17	30	33	15

平年は2012年から2021年までの平均値。朝日村は2019年から2021年までの平均値

⑨オオタバコガ

巡回調査では、被害はみられなかった。

フェロモントラップによる誘殺頭数は、全般的に平年並からやや少ない（第2表）。

第2表 オオタバコガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	5.2	6.6	4.0	4.0	3.4	1.9
		本年	1	4	2	3	1	6
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	6.2	8.3	6.6	6.9	4.3	9.5
		本年	14	5	1	1	4	1
須坂市小河原 （農業試験場）	レタス	平年	2.1	2.3	1.3	0.9	0.3	0.3
		本年	0	0	1	2	1	1

平年は2012年から2021年までの平均値

⑩ヨトウガ類

巡回調査では、被害はみられなかった。

フェロモントラップによる誘殺頭数は、ヨトウガは塩尻市宗賀（野菜花き試験場）で、5月は平年と比べ多く、その傾向は6月第1半旬まで続いた。

ハスモンヨトウは、塩尻市宗賀（野菜花き試験場）及び上田市菅平（地区発生予察ほ）で、誘殺頭数は6月第5半旬に平年と比べ多くなった。

シロイチモジヨトウは、長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）で、6月第5半旬に初誘殺となった。（第3、4、5表）。

第3表 ヨトウガのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	6月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	6.3	8.2	6.2	8.1	4.6	4.9
		本年	13	6	9	10	2	1
須坂市小河原 （農業試験場）	とうもろこし・ 水稲	平年	2.7	1.2	0.7	0.0	0.0	0.0
		本年	3	2	3	2	0	0

平年は2012年から2021年までの平均値

第4表 ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	6月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	2.4	3.2	4.2	4.2	4.3	4.2
		本年	0	0	3	8	12	20
須坂市小河原 （農業試験場）	とうもろこし ・水稲	平年	1.6	2.7	5.5	7.0	9.0	8.2
		本年	0	0	1	2	4	6
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	0.4	0.6	0.5	2.3	3.0	5.1
		本年	0	1	2	4	10	6

平年は2012年から2021年までの平均値

第5表 シロイチモジヨトウのフェロモントラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	6月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	0.6	0.3	0.7	0.7	0.2	0.8
		本年	3	0	1	1	4	5
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	0.0	0.0	0.3	0.8	1.0	0.0
		本年	0	0	0	0	1	1

平年は2012年から2021年までの平均値

⑪ウワバ類（アブラナ科野菜）

巡回調査では、中信地域のキャベツで被害がみられた。

⑫ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、南信地域及び中信地域のねぎで寄生がみられた。

⑬アブラムシ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、中信地域のトマトと南信地域のアスパラガスで寄生がみられた。

黄色粘着トラップによるアブラムシ類有翅虫の誘殺では、上田市菅平（地区発生予察ほ）、長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）で、6月第6半旬に誘殺頭数は増加した。

その他の調査地点については、全般的に平年並であった（第6表）。

第6表 アブラムシ類有翅虫の黄色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分 半旬	6月					
			1	2	3	4	5	6
塩尻市宗賀 （野菜花き試験場）	キャベツ・ はくさい	平年	17.6	10.8	16.4	16.6	20.8	20.0
		本年	8	17	11	23	14	13
小諸市山浦 （野菜花き試験場 佐久支場）	レタス	平年	31.0	21.6	36.2	26.2	26.0	40.2
		本年	18	4	14	40	18	22
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	18.0	13.6	15.8	14.4	27.2	15.0
		本年	2	3	4	3	11	25
富士見町富士見 （地区発生予察ほ）	きく	平年	75.0	88.8	108.2	53.0	73.8	118.6
		本年	60	78	27	121	45	41
塩尻市洗馬 （地区発生予察ほ）	レタス	平年	52.8	38.0	53.0	44.5	69.6	49.4
		本年	47	75	37	74	71	20
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	18.0	13.6	15.8	14.4	27.2	15.0
		本年	2	3	4	3	11	25

平年は塩尻市・小諸市・富士見町は2017年から2021年までの平均値
 上田市・長野市は2018年から2021年までの平均値

⑭アザミウマ類（ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマなど）

巡回調査では、中信地域の施設（半促成）栽培のきゅうり、中信地域、南信地域、北信地域のアスパラガス、北信地域のたまねぎ、南信地域及び中信地域のねぎで寄生がみられ、中信地域の施設（半促成）栽培のトマトで、白ぶくれ果がみられた。

青色粘着トラップによるアザミウマ類の誘殺消長は、諏訪郡富士見町（地区発生予察ほ）で第4半旬、長野市上ヶ屋（地区発生予察ほ）で第5半旬に急増した。その他の調査地点については、全般的に平年並であった（第7表）。

きくは6月第4半旬以降増加傾向が続いている。

第7表 アザミウマ類の青色粘着トラップによる誘殺消長（頭）

設置場所	品目	区分	6月					
			半旬	1	2	3	4	5
上田市菅平 （地区発生予察ほ）	はくさい	平年	3.3	16.8	10.3	6.0	8.8	9.3
		本年	3	4	6	8	9	11
諏訪郡富士見町 （防除適期決定ほ）	きく	平年	9.6	16.4	44.0	7.8	6.8	29.4
		本年	6	7	7	30	40	41
塩尻市洗馬 （地区発生予察ほ）	レタス	平年	4.0	3.6	6.0	4.6	13.8	22.4
		本年	8	7	2	21	17	17
長野市上ヶ屋 （地区発生予察ほ）	キャベツ	平年	2.5	4.3	3.8	5.3	4.8	9.0
		本年	2	3	3	5	69	138

平年は富士見町・塩尻市は2017年から2021年までの平均値
 上田市・長野市は2018年から2021年までの平均値

⑮ハダニ類（野菜・花き全般）

巡回調査では、北信地域のアスパラガスで寄生がみられた。